

サンエイワーク小国太陽光発電所について

2018年5月30日

株式会社サンエイワーク

MEGASOLAR GENERATION NI 合同会社

熊本県で国内最大級のソーラーシェア、15MWのパネル下でシイタケ栽培

熊本県阿蘇郡小国町黒淵地区に建設を進めてきたサンエイワーク小国太陽光発電所は2016年2月に工事着手するも熊本地震で中断、翌17年2月に再着工していましたが全工区が完成し5月より九州電力へ売電を開始しています。

総事業費は約60億円で、最大出力15MW(メガワット)、年間の発電量は1980万kwhを見込んでいます。これは一般家庭5500世帯分の年間使用電力(1世帯当たり3600kwhとして換算)を賄う規模で20ヘクタール(東京ドームの4倍超)の敷地面積に約4万7000枚の発電パネルを設置し、パネルの下部ではシイタケを栽培する国内最大級の営農型太陽光発電所となります。

当社、サンエイワークは日本テレビグループのビルメンテナンスを主とした企業であり、日本テレビワーク24の子会社であります。運営にあたっては、特別目的会社MEGASOLAR GENERATION NI合同会社として営農型発電事業を行います。当社としましては4年前、岩手県の洋野町でメガソーラー事業初参入を果たして以来、3基目の発電所となり、再生可能エネルギーの地域分散型電源を運営することで地球温暖化防止に寄与する社会貢献はもとより、小国太陽光発電所では、さらに、我が国最大規模のソーラーシェアリング事業を目指してまいります。

ソーラーシェアリングは農地などに支柱架台を設置し、上部空間では太陽光発電、その下部で農業を行うものです。発電と農業を両立させ、売電収益に加え収穫した農作物の販売も見込めることから、高齢化や人材不足、収益力の向上が課題となっている国内農業の新しい事業形態として注目されています。

サンエイワークが小国町で進めているプロジェクトは、農家の高齢化などにより耕作放棄地となっていた広大な農地を再生することで地元に貢献しようというものです。

太陽光パネル下部(遮光率65%)の農地では原木シイタケが栽培されます。シイタケは日陰での育成が必要なため、ソーラーシェアリング事業に適した作物と期待されているのです。当社は栽培されたシイタケのブランド化にも取り組み、地域活性化に少しでも役立ちたいと考えています。

太陽光パネルは、韓国 S-Energy 社製。パワーコンディショナーは、TMEIC(東芝三菱電機産業システム)製のものを採用しました。発電所の設計施工は、喜志・洸陽電機 特定建設共同企業体が行い、完成した発電所の運用・メンテナンスは、シン・エナジー株式会社が担当します。



小国太陽光発電所の上空写真とパネル横に搬入されたシイタケの原木 出展:サンエイワーク

発電所名 サンエイワーク小国太陽光発電所
設置場所 熊本県阿蘇郡小国町大字黒淵字犬防田 476 - 1 他
設置面積 200265 m²
発電規模 15MW(15000kw)
想定発電量 約1980万 kwh/年
CO₂削減量 約6227 トン/年 (50年生の杉 44万4793本分の植林効果)

※CO₂ 吸収量・石油削減量に関しては「地球温暖化防止のための緑の吸収現対策」環境省・林野庁資料、
太陽光発電協会(JPEA)「表示に関する業界自主ルール」を参考。

事業者 MEGASOLAR GENERATION NI 合同会社

<連絡先> 〒102-0084 東京都千代田区二番町 14 番地
日テレ麹町ビル南館 3F

株式会社サンエイワーク

<http://www.saneiwork.co.jp/html/b03.htm>